

朽木城跡

朽木城は朽木氏の居城です。朽木氏は高島七頭に数えられ、室町幕府の有力氏族でもありますが、浅井長政離反による、信長の越前からの敗走を手助けしたことから、早くに信長の配下となります。

城は安曇川の河岸段丘上にあり、安曇川と北川の合流点、若狭街道と朽木

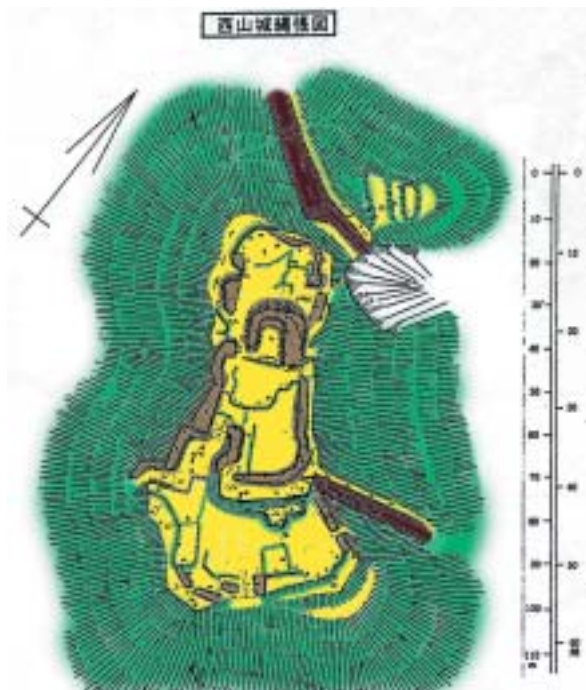


朽木城・西山城遠景

西山城跡

西山城は、朽木城背後の比高差一九五呎の山上に位置し、若狭街道と琵琶湖方面への街道の両者を俯瞰できる好位置に占地しています。

築城に関する資料が未発見であるため詳細は不明ですが、その立地から、



西山城縄張り図

内枳形状ながら、コンパクトながらも注目を集めます。また北郭の東には虎口と思われる土塁の切れ目があり、その部分のみ石積みが見られます。なお主郭の北端には、高さ約3mもある馬蹄形の土塁に囲まれた空間があり、狼煙台ではないかと言われています。



朽木陣屋縄張り図

谷から琵琶湖方面への街道の接点にあたる、陸運・水運の要衝に位置します。

朽木城は近年まで、その位置がはっきりとはわかっていませんでした。ところが、平成一三年度に朽木陣屋跡の発掘調査が行われ、江戸時代の陣屋より以前の一五世紀初めに遡る遺構が発見されました。このことから、少なくとも一五世紀には、朽木氏の本拠地である朽木城は、陣屋と同じ位置に存在し

朽木城の背後を固める城であることは間違いありません。

遺構の残存状況は非常に良く、現地に立つと多くの遺構を確認できます。最高所には主郭を置き、その南北に郭を配し、南北両郭の外側で大堀切によって尾根を切断し、城域を区切っています。主郭の南虎口は土塁と切岸に囲まれた長方形の空間になっており、コ

たことがわかったのです。また室町時代に構築された施設が、基本的要素を変えず、朽木城・朽木陣屋を通じて存続していたことが確認されました。

ただ現在地表で確認できる遺構は、明治維新以降の地形改変によって、残念ながら土塁や堀の一部のみです。しかし平成一三年度の発掘調査の結果から、村民グラウンドやそれに隣接する畑地の地下には、遺構が残存している可能性が高いと考えられています。



発掘調査で確認された堀の跡



西山城主郭狼煙台

内枳形状の虎口の存在から、一六世紀後半の改修または築城が考えられますが、これまでに発掘調査等が行われていないことから、築城および廃城の詳細な年代は現在のところ不明です。